

問1 現代社会における国際的な課題である貧困問題への対策として実施されている「マイクロクレジット」の仕組みや特徴について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 経済危機に陥った国に対し、国際通貨基金（IMF）が巨額の資金を融資して通貨の安定を図る仕組み
2. 先進国の企業が開発途上国に工場を建設し、現地での雇用を創出して直接的に所得を増やす仕組み
3. 開発途上国の農産物や工芸品を適正な価格で継続的に購入し、生産者の生活向上を支援する仕組み
4. 担保を持たない貧困層が事業を始めるための少額の資金を貸し付け、経済的な自立を促す仕組み

問2 日本の工業に関する統計において、熊本県や大分県、長崎県といった九州地方や、岩手県を中心とする東北地方、さらには茨城県などの関東地方で、製造品出荷額に占める割合が高いことが特徴である品目はどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 鉄鋼
2. 自動車
3. 集積回路（IC）
4. 繊維製品

問3 江戸幕府が諸大名に対し、1年おきに領地と江戸を往復することを義務づけ、江戸時代の街道において石畳の道が整備されるなどの影響を与えた制度を何といいますか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

1. 武家諸法度
2. 寄合衆
3. 天下普請
4. 参勤交代

問4 1918年、米騒動のあとに成立した原敬内閣は、それ以前の内閣と異なり、日本で初めての「本格的な政党内閣」とであると評されます。そのように評価される理由として最も適切な説明はどれか。 (2022年 大分県公立入試 類似)

1. 陸軍・海軍・外務の3大臣を除いた、ほとんどの大臣に衆議院の第一党である立憲政友会の所属議員を起用したため
2. すべての成人男女に選挙権を認める普通選挙法を成立させ、国民の声を直接政治に反映させたため
3. 貴族院の支持を背景に、軍部の影響を一切排除した閣僚人事を行ったため
4. 華族の身分を持つ人物として初めて、国民から直接選挙で選ばれた総理大臣となったため

問5 奈良時代の税制度において、都からの距離と人々に課せられる負担の関係について正しく述べたものはどれですか。都を中心として同心円状に地域の負担を示した資料の内容を踏まえて答えなさい。 (2019年 大分県公立入試 類似)

1. 都に近い地域ほど、収穫した米の一定割合を納める「租」の負担が重くなっていた。
2. 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。
3. 都に近い地域ほど、特産物を都まで運ぶ往復の移動に日数がかかるため、労役が免除されていた。
4. 都に近い地域ほど、都から遠い地域よりも納める特産物の種類が多く指定されていた。

問6 日本の裁判制度において、裁判の慎重を期して人権を守るために、一つの事件につき3回まで裁判を受けることができる仕組みを何といいますか。また、第一審の判決に不服がある場合に、第二審の裁判所へ裁判のやり直しを申し立てることを何といいますか。適切な組み合わせを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 三審制 ― 控訴
2. 行政裁判 ― 控訴
3. 行政裁判 ― 上告
4. 三審制 ― 上告

問7 2019年に開催されたラグビーワールドカップの出場チームについて、北半球と南半球の分布状況を説明したものとして最も適切なものはどれか。なお、出場国にはイギリスの各地域、フランス、日本、アメリカ合衆国、南アフリカ共和国、ニュージーランド、アルゼンチンなどが含まれている。 (2019年 大分県公立入試 類似)

1. 南半球に位置するチームの数が、北半球に位置するチームの数よりも多い
2. 赤道に近い熱帯に位置するチームの数が、全出場チームの過半数を占めている
3. オーストラリアやフィジーなどのオセアニア州のチーム数が、全州の中で最も多い
4. 北半球に位置するチームの数が、南半球に位置するチームの数よりも多い

問8 中国の長江下流域から沿岸部にかけて広がる華中地域では、その自然環境を活かした食文化が発達しています。この地域の食文化の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 大分県公立入試 類似)

1. 内陸の盆地特有の湿気を払うために、唐辛子や山椒などの香辛料を多用した刺激の強い味付けの料理が発展している。
2. 起伏の激しい高原地帯で行われる放牧によって得られる、羊の肉や乳製品を用いた料理が日常的に食べられている。
3. 降水量が少なく乾燥した平原で栽培される小麦を原料とした、麺類やギョーザなどの粉もの料理が中心である。
4. 長江などの大河川からもたらされる水資源を利用して生産された米や、豊富な魚介類を使った八宝菜などの炒め物料理が代表的である。

問9 レタスの市場への入荷量を月別に分析すると、長野県産は7月から9月にかけて急増し、年間で最も多い出荷時期を迎えます。これに対し、冬から春にかけては茨城県や静岡県などの入荷量が多くなります。長野県がこのような出荷時期の調整を行っている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)

1. 夏の涼しい高冷地の気候を活かし、平地での生産が減少する時期に市場へ供給するため
2. 大消費地である東京などに近いため、輸送費を抑えて新鮮なうちに大量出荷するため
3. 冬の温暖な気候を活かし、ビニールハウスを用いて出荷時期を大幅に早めるため
4. 化学肥料や農業を一切使わず、自然のままの環境でゆっくりと時間をかけて育てるため

問10 奈良時代の租税制度の一つである「調」について、その負担の仕組みを正しく説明しているものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)

1. 口分田の収穫から約3%の稲を納めるもので、主に地方の役所の倉庫に保管された。
2. 年間で60日を限度として、地方の国司の命令により土木工事などの労働に従事した。
3. 都での労役の代わりに布を納めるもので、都までの運搬費用は国が負担した。
4. 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。

問11 明治政府の初期において、倒幕の中心となった薩摩（鹿児島県）・長州（山口県）・土佐（高知県）・肥前（佐賀県）といった、一部の藩の出身者が政府の主要な役職を独占していた政治体制を何といいますか。 (2020年 大分県公立入試 類似)

1. 挙国一致内閣
2. 藩閥政府
3. 公議政体
4. 政党内閣

問12 894年に遣唐使の派遣が停止された理由として、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)

1. 白村江の戦いで唐の軍勢に敗北したことにより、国交が途絶えていたため
2. 派遣先である唐の国勢が衰退しており、往復の航海も非常に危険であったため
3. 唐が滅亡し、新しく宋（北宋）が建国されたことで交流の必要がなくなったため
4. 遣唐使の派遣が始まったことで、中国との外交ルートが新しくなったため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 担保を持たない貧困層が事業を始めるための少額の資金を貸し付け、経済的な自立を促す仕組み	マイクロクレジットは、単なる寄付や援助ではなく「融資（貸し付け）」であることが重要です。自分たちで商売を始めるための元手となる資金を提供し、返済を通じて責任感と自立心を育むことで、貧困からの脱却を目指す持続可能な支援策とされています。
問2	答え 3 集積回路（IC）	九州は「シリコンアイランド」、東北は高速道路沿いに工場が並ぶことから「シリコンロード」と呼ばれ、集積回路の工場が多く立地しています。これらの製品は小型で軽量なため、輸送コストに占める割合が低く、空港や高速道路の周辺、そして製造過程で不可欠な清浄な水が確保できる場所に工場が集まる傾向があります。
問3	答え 4 参勤交代	徳川家光の時代に制度化された仕組みです。大名は1年ごとに江戸と領地を往復し、妻や子は人質として江戸に住まわされました。この往来のために街道や宿場が整備され、各地の交通や文化の交流が促進される一因となりました。
問4	答え 1 陸軍・海軍・外務の3大臣を除いた、ほとんどの大臣に衆議院の第一党である立憲政友会の所属議員を起用したため	原敬は、衆議院で第一党の地位にあった立憲政友会の総裁として、軍事・外交という専門的な省庁以外の閣僚を自党の議員で固める人事を行いました。それまでの内閣が藩閥（薩摩・長州出身者）や特権階級を中心としていたのに対し、議会の多数派を基盤として組織された点が画期的であったため、「本格的な政党内閣」と呼ばれます。原自身が爵位を持たない衆議院議員であったことから「平民宰相」として国民に期待されました。
問5	答え 2 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。	奈良時代の律令制度では、都からの距離に応じて税や労働の負担が調整されていました。都に近い地域（畿内など）に住む人々は、都までの移動距離が短く、移動に要する日数が少なくて済むため、その分、実際に都で働く「労役（賦役）」の日数が多く課せられていました。これは、遠方の地域の人々が特産物などを都まで運ぶのに多大な日数を費やすこととのバランスを考慮した仕組みです。「租」は主に田地の面積に応じて課されるものであり、都からの距離によって収穫量の割合が変わるものではありません。
問6	答え 1 三審制 ― 控訴	裁判には誤りが起こる可能性があるため、慎重な審理によって国民の人権を保護することを目的に「三審制」が採用されています。第一審の判決に不服があり第二審へ訴えることを「控訴」、第二審の判決に不服があり第三審へ訴えることを「上告」と呼びます。これに対し、国や地方公共団体の不当な行政処分を争うものは「行政裁判」と呼ばれます。
問7	答え 4 北半球に位置するチームの数が、南半球に位置するチームの数よりも多い	2019年大会の出場チームを地理的に整理すると、北半球にはアイルランド、イングランド、ウェールズ、スコットランド、フランス、イタリア、ジョージア、ロシア、日本、アメリカ合衆国、カナダの11チームが位置しています。一方、南半球はナミビア、南アフリカ共和国、アルゼンチン、ウルグアイ、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、サモア、トンガの9チームとなっており、北半球に位置するチームの方が多数派です。
問8	答え 4 長江などの大河川からもたらされる水資源を利用して生産された米や、豊富な魚介類を使った八宝菜などの炒め物料理が代表的である。	長江の下流域を中心とした華中地域は、温暖湿潤な気候と豊かな水資源に恵まれています。この環境を利用して稲作（米の生産）や淡水魚の漁業が盛んに行われてきたため、米を主食とし、魚介類や農産物を具材とした八宝菜のような炒め物料理が独自の食文化として定着しました。小麦中心の華北や、羊肉を用いる内陸部、香辛料を多用する四川盆地などとは異なる特色を持っています。
問9	答え 1 夏の涼しい高冷地の気候を活かし、平地での生産が減少する時期に市場へ供給するため	長野県の野辺山原などは標高が高く、8月でも気温が約20度程度にとどまります。この涼しさは、レタスなどの高原野菜の生育に適しており、平地が猛暑で生産に適さない夏場に集中的に出荷することを可能にしています。他の産地の出荷が減る時期を狙って出荷することで、高い利益を得る仕組みです。なお、大消費地に近い立地を活かすのは「近郊農業」の説明です。
問10	答え 4 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。	律令制下の税のうち、「租」は収穫した稲を地方の倉庫に納めるものでしたが、「調」や「庸」は遠く離れた都まで歩いて運搬して納める必要がありました。この運搬にかかる費用や道中の食料はすべて納税者本人が負担しなければならず、当時の民衆にとって肉体的・経済的に非常に重い負担となっていました。選択肢にある稲の徴収は「租」、労役の代わりに布は「庸」、地方での労働は「雑徭」の説明です。
問11	答え 2 藩閥政府	明治新政府は中央集権的な国家体制を目指しましたが、実際には倒幕に大きな功績のあった有力な藩の出身者が実権を握り続けました。このような体制は、のちに板垣退助らによって「有司専制（官僚による独裁）」として厳しく批判され、自由民権運動が起こる要因となりました。
問12	答え 2 派遣先である唐の国勢が衰退しており、往復の航海も非常に危険であったため	遣唐使の停止には、大きく分けて2つの理由があります。一つは、唐国内で反乱が起きるなど国勢が衰えており、命を懸けて派遣しても得るものが少なくなっていたこと。もう一つは、東シナ海を渡る航海が依然として困難で、多くの犠牲者を出すほど危険だったことです。